認定特定非営利活動（NPO）法人
柔道教育ソリダリティー

Newsletter vol. 9

Certified NPO – Solidarity of International Judo Education

①日中友好青島柔道館の子供たち（中国・青島） ②パレスチナチーム（福岡県・大宰府） ③視覚障害キッズ柔道教室（マレーシア・クアラルンプール）
④第8回サニックス旗中学生柔道大会（福岡） ⑤日中友好南京柔道館の練習風景（中国・南京） ⑥来日したイスラエル・パレスチナチーム

国際的な柔道の普及—「自他共栄」を実現するために

—To promote the international popularization of judo and realization of *jitakyoei* (mutual prosperity for oneself and others).

現在、国際柔道連盟（IJF）には、200の国と地域が加盟しています。柔道は、一流競技者から一般市民に至るまで愛好され、各国の文化的特性と融合しながら創始者嘉納治五郎師範が掲げた「自他共栄」の実現を目指しています。

柔道を通して日本の心を伝え、様々な国との文化交流に役立てたい

—We communicate the Japanese spirit.

昨今の国際情勢を見ると、紛争やテロ、地球環境の劣化、南北格差の拡大、人口増加など問題が山積みされております。そのような状況の中、一部の発展途上国では柔道の指導者、道衣、畳、教材などが不足し、柔道を学びたくても学べない現状があります。柔道の国際的普及、振興に努めていきます。

今、大切なことは、子ども達をいかにして育てていくか

—Educate youth through judo.

柔道を通して世界中の人々が心を通い合わせ、お互いの文化を理解することが「自他共栄」を実現することの近道と考えております。これからの社会を担っていく青少年を、柔道を通して育成することが大切であると考えております。

※柔道教育ソリダリティーは、2009年5月1日より国税庁より認定を受けました。本法人へのご寄付は、寄付金控除、損金算入などの税の優遇措置の対象になります。

認定特定非営利活動法人
柔道教育ソリダリティー

認定特定非営利活動法人
柔道教育ソリダリティー会報第9号
2011年2月1日発行　published 1st of February 2011
発行人：山下泰裕
発行所：特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー
〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1
東海大学 体育学部 柔道研究室

Address：4-1-1 Kitakaname, Hiratsuka-shi, Kanagawa Japan, 259-1292
ＴＥＬ：0463-58-1211（内線3524）
ＦＡＸ：0463-50-2230
Email：judo3524@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp

Vol. 9

http://npo-jks.jp

柔道　友情　平和　検索

イスラエル・パレスチナ訪問報告

2010年7月17日～23日まで、私と光本事務局長、井上康生の3名でイスラエル・パレスチナを訪問させていただきました。この訪問は、イスラエル公使を務められている松田邦紀さんのご尽力により実現したものです。松田さんは、イスラエル公使着任前に外務省でロシア課長を務められており、私が外務省と協力して日露交流を進めていた時から親交がありました。イスラエル赴任が決定してから、私に柔道の「和の心」を以ってスポーツ交流をして欲しいと提案され、在イスラエル大使館の竹内晴久大使からも依頼書をいただき、我々NPOに出来ることがあれば、協力したいと思うに至りました。このイスラエル・パレスチナ訪問事業は、国際協力基金にもご協力をいただき実現しました。

イスラエル・パレスチナでは様々な場所で指導者を対象に講演会と柔道教室を行いました。外国で求められるのは、技術面に関する指導ですが、我々が伝えたいのは「柔道の心」、即ち「柔の心」「和の心」です。それを伝えながら日本を理解してもらいたいのが我々の想いです。ですから、この両方を伝えるために講演会と柔道教室をセットにして行っています。最終日にはメイン行事として、イスラエルの子供とパレスチナの子供を集めて合同の柔道教室を開きました。移動制限のあるパレスチナ自治区の子供たちも含め、合わせて約50名の子供達が参加してくれました。

このような活動を展開できるのも、本法人の活動に日ごろからご理解をいただいている会員の皆さまのご支援とお力添えがあればこそと思っております。ご支援いただいた皆さまに心から感謝申し上げます。私どもは、これからも日本及び海外の青少年育成に対して、スポーツを通した国際交流による平和活動貢献を続けていきたいと考えています。今後も、なお一層のご理解とご支援をお願いいたします。

認定NPO法人柔道教育ソリダリティー　理事長　山下泰裕

この活動の詳細は、6ページから掲載しています。

主な活動　（2010年7月～2010年12月）

- Major Activities -

年 月 日	内 容
2010年7月4日	第32回山下旗柔道大会を視察（宮城県・登米市）
2010年7月9日	リサイクル畳99枚がペルー農業大学に到着
2010年7月17日～23日	山下泰裕理事長・光本恵子事務局長・井上康生氏をイスラエル・パレスチナへ派遣
2010年7月20日～8月19日	東海大学体育学部よりインターンシップ生、山田和弘君を受入
2010年7月	リサイクル柔道衣がマレーシア盲学校及びホンジュラスに到着
2010年8月28日	第2回望星柔道ジャンボリー柔道大会支援（神奈川県・東海大学）
2010年9月5日	中国人留学生王皓君が東京学生柔道体重別選手権100kg超級で優勝
2010年10月24日	第29回望星旗少年武道大会（柔道の部）を支援（神奈川県・東海大学）
2010年11月	リサイクル柔道衣がモンゴル・インド・バヌアツに到着
2010年12月1日～14日	ガーナ人柔道選手エマニュエル君を受入（神奈川県・東海大学）
2010年12月5日	第30回塾友杯柔道大会を支援（東京都・望星学塾）
2010年12月6日	第9回講演会を東京・霞が関にて開催
2010年12月17日～29日	イスラエル・パレスチナの青少年を招へい（福岡県・宗像市）
2010年12月26日～30日	「日中友好南京柔道館」へ橋本副理事長らを派遣

1

2

※1　イスラエル・パレスチナ柔道少年来日歓迎会にて、アルカワスミ団長と山下理事長
※2　「日中友好南京柔道館」で指導を行った橋本副理事長とボランティア院生

※1　Delegation Chief Alqawaasmi and Chair Yamashita at the Welcoming Ceremony for Joint Israel/Palestine Junior Judo Delegation to Japan.
※2　Vice Chair Hashimoto and volunteer graduate students who all instructed at the Nanjing Japan China Judo Friendship Center.

日本の心、柔道を世界へ伝えるために・・・

柔道用品（柔道衣・畳）の支援

2010年度は、柔道衣337着（7カ国）、畳99枚（1カ国）を送りました。

Peru

2010年1月に送付したリサイクル畳99枚が、同年7月にペルー農業大学に到着しました。贈呈式の模様が、在ペルー日本大使館より届きました。

99 recycled tatami mats sent from Japan in January 2010 arrive at the National Agrarian University in Peru in July of the same year. The Japanese Embassy in Peru sent these pictures of the presentation ceremony.

このリサイクル柔道畳の寄贈は、小川郷太郎理事が在ペルー日本国大使館との仲介をして下さり、ペルー大使館の目賀田周一郎大使から要請を受けて行われました。リサイクル畳は、東京農業大学第一高等学校の柔道場の畳を張り替える際、柔道部監督池内隆英先生に畳の寄贈をお願いしたところご快諾いただきました。

在ペルー日本特命大使、目賀田周一郎氏からお礼状の一部を紹介します

山下先生にご尽力頂きましたペルーの国立モリーナ農業大学柔道場への畳の寄贈式を7月8日に、無事執り行うことが出来ましたのでご報告申し上げます。税関当局と大学の間でトラブルがあり、輸送に予想外の時間がかかってしまいましたが、お陰様で問題は全て解決いたしました。大学関係者はご寄贈頂いた畳に大変満足し、大いに感謝しております。寄贈式はメヒア学長自らが主催し、本件の発端となる要望書を私に送付したマエゾノ前学長、その他多くの大学関係者、柔道部員や報道関係者が出席し盛大に行われました。

寄贈式は、日本とペルーの友好関係を象徴する重要な機会ともなり、同大学との間で将来にわたって柔道を通じる交流の基盤が築かれたとも考えられます。このような事が出来ましたのも一重に山下先生のご尽力とご支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。

来年3月以降には、文化無償協力による柔道機材の引き渡し式も予定されており、その機会を活用して大々的に柔道を通じた交流、相互理解の促進の機会となればと考えております。

向かって左より目賀田大使、メヒア学長、マエゾノ前学長

大学で柔道を学ぶ学生たち

ラ・モーラ大学での練習の様子

ONG japonesa donó 99 tatamis a Universidad Agraria La Molina

現地新聞にも掲載されました

Mongol

外務省を通じて2010年9月にモンゴルに送ったリサイクル柔道衣70着が、同年11月在モンゴル日本大使館に無事到着し、モンゴル柔道協会に贈呈されました。

70 recycled judogis sent to Mongolia through the Ministry of Foreign Affairs in September 2010 arrive safely at the Japanese Embassy in Mongolia in November of the same year and were presented to the Mongolian Judo Association.

在モンゴル大使館での贈呈の様子

多くの取材に答えるモンゴル柔道連盟パグワ副会長

モンゴル柔道連盟パグワ副会長からのメッセージを紹介します

柔道は、世界中で楽しまれている様々なスポーツの中でも、スポーツとしての勝負だけでなく、その精神の普及や平和のための活動などを行います。こうした柔道を日本政府からも支持していただいていることに感謝いたします。日本からの数多くの柔道衣の支援は、今回が初めてであり、非常に感謝しております。モンゴルでは首都以外の地方でも柔道が盛んになっておりますが、地方の道場では柔道衣が不足しているのが現状です。頂いた柔道衣は地方で柔道に励んでいる、子どもたちを中心に配布したいと考えております。この柔道衣贈呈にご尽力いただいた、山下理事長と城所大使に深く感謝申し上げます。

2010年7月に送付したリサイクル柔道衣70枚がマレーシアに届き、JICAシニア海外ボランティア（マレーシア視覚障害者柔道）で活動されている小山繁氏からお礼状が届きました。

70 recycled judogis sent to Malaysia in July 2010 arrive safely, and we received a letter of appreciation from Shigeru Koyama who is a JICA senior international volunteer teaching judo to visually disabled Malaysians.

JICAシニア海外ボランティア小山繁氏からのお礼状の一部を紹介します

たくさんの柔道衣をご提供いただき有難うございました。早速新しく始まった視覚障害者キッズ柔道と大人の柔道クラスの生徒に着用させ活用させていただいてます。

私はJICAマレーシア視覚障害者柔道指導者としてマレーシアの首都であるクアラルンプールで柔道の指導を行っています。私の職場はMAB(Malaysian Association For The Blind マレーシア視覚障害者協会）というNGOの機関です。職務はここで社会・職業訓練を受けている全寮制の生徒及びOBに柔道の指導をする事と、視覚障害者柔道の指導者育成指導、更には視覚障害者柔道の国際大会で活躍できる様な選手の発掘・指導です。私はここの初代日本人指導者となります。

私がマレーシアでの視覚障害者柔道指導者に決まった直後からマレーシアでの柔道普及に大きな貢献をされてこられた坂元英郎先生（八段）に、お声をかけていただきマレーシアの柔道事情等事前にご紹介いただきました。そしてマレーシア着任後も、坂元英郎八段が主管する極めてインターナショナルなBANGSAR柔道倶楽部でも（クアラルンプール市内の健常者の柔道倶楽部）柔道指導を始めました。土曜日はMABの道場で、視覚障害者とBANGSAR柔道倶楽部の健常者の生徒との合同稽古を行い視覚障害者と健常者との柔道交流を深めています。健常者がガイドして道場の回りを走る事から始まり、お互いに真剣な乱取りも行っています。

こうした健常者の支援・協力は、視覚障害者柔道普及における大きなキーとなるものです。BANGSAR柔道倶楽部の何人かの生徒達が、キッズ柔道や大人の初心者クラスのレッスンに駆けつけ手伝ってくれており多いに助かっています。

今後の課題の一つに全国レベルで盲人学校の先生及び生徒に対し、視覚障害者柔道の普及を図る事があります。マレーシアの教育庁に柔道のプレゼンテーション資料を提出すると同時に、盲人学校の先生を対象に2、3日間のワークショップをMABで開くので参加を、との呼びかけを始めました。先ずは柔道とはどんなものかを盲人学校の先生方々に知っていただくところから突破口を開いていきたいと思っています。

微力ではありますが、視覚障害者柔道指導を核にしてマレーシアでの柔道普及に努めていきたいと思います。今後とも宜しくご指導・ご支援のほどお願い申し上げます。

一人ひとりにあった柔道指導をする小山氏

視聴覚障害キッズ柔道の子供たち

2010年2月に送付したリサイクル柔道衣50枚が同年11月にインドに届き、JICA青年海外協力隊（柔道）で活動している長瀬拓己君からお礼状が届きました。

50 recycled judogis sent to India in February 2010 arrive in November of the same month, and we received a letter of appreciation from Takumi Nagase who is a JICA Overseas Cooperation Volunteer teaching judo.

届いた柔道衣に喜ぶムンバイの子供たち

長瀬拓己君の柔道指導の様子

青年海外協力隊長瀬拓己君からのお礼状の一部を紹介します

この度は、10箱もの柔道衣を送っていただき誠にありがとうございました。現在はこの柔道衣を各クラブに提供している最中です。私が教えている道場でも配布することが出来、皆で集合写真を取る事ができました。畳が12枚しかない道場ですが、皆で切磋琢磨しながら柔道に打ち込んでいます。先生を初め、道場の皆が「これからは柔道衣が破れる心配なく練習ができる」と喜んでいました。

私はここインドに来て、実際に柔道を様々な生徒に教えてみて、“教える”というのは本当に大変である事を実感しています。インドの道場は初心者から上級者までが混合で練習をします。受け身をまだ覚えていない生徒から乱取りを多く行いたい選手などがいて、全部を円滑に運ぶのに大変苦労します。

各道場に先生が1人配属されており、現在私と二人三脚で生徒の指導にあっていますが、ほとんど私に丸投げ状態なので私が8割生徒を見ます。小・中学生指導の際は松前少年柔道塾で教えていた経験が役に立ち『早く覚える子はすぐ覚えるし、センスがない子は何度も繰り返し言うしかない』と割り切り、挫折せず教えることに成功しています。

高校生以上の生徒は実際に週5～6回の練習を行えば絶対に柔道を覚えることができるのですが、ここは学歴社会の濃いインドのムンバイであります。テスト勉強優先！宿題優先！学業優先！ですので、生徒も道場には、多くて週に3回通う程度です。限られた時間の中で反復練習を行って技を固め、乱取りでは私が教えている事に注意して取り組んでほしいと願っています。

10ヶ月住んでみてインドは本当に人の生き方を考えさせられるすばらしい場所だと思っています。
現在人口12億人のインドは、州が違えば違う言語や文化が広がっています。私は日々、ここでどのような新しい発見を出来るのか、インド人に怒ったり、笑ったりして、新・長瀬拓己を作りたいと思っています。

外国からの選手・指導者受入

2010年12月1日～14日の間、ガーナ人柔道選手を受入れました

エマニュエル・ナーティー君

東京グランドスラム大会にガーナ代表として出場しました

We welcomed Ghanan judoka Emmanuel Nartey as our guest from December 1 to 14, 2010.

ガーナオリンピック委員会からの要請があり、ガーナ人柔道選手エマニュエル・ナーティー君を2010年12月1日～12月14日の期間受入れました。滞在中、12月12日に東京グランドスラム世界大会に出場しました。結果は1回戦敗退でしたが、大きな課題が見つかったそうです。

エマニュエル君は、イギリスのバース大学で柔道の練習環境を得て、ロンドン五輪を目指して頑張っています。彼の夢は、将来ガーナに帰り子供たちに柔道を教え、ガーナの柔道普及に貢献することです。東海大学に何度か来て練習している彼は、日本で多くの柔道の心を学んだそうです。帰国したら子供たちにこの心を伝えていきたい、ガーナ柔道発展のために頑張ります！と語りました。

東京学生柔道体重別選手権大会で優勝した王皓君

東海大学での練習の様子

王皓君　ご報告

2010年4月から東海大学体育学部に入学した中国人留学生の王皓君が2010年9月5日、日本武道館で開催された平成22年度東京学生柔道体重別団体選手権大会に出場し、男子100kg超級、49名の参加者の中で優勝しました。

王皓君は2009年の11月に前十字靭帯の手術を受け、今回が久々の試合でした。みなさんもどうぞ応援お願いいたします。ロンドン五輪を目指してこれからも頑張って行きます！

第9回講演会　「日独交流150年、文化交流で未来を拓く」

講演を行ったハラルド・ゲーリック氏

多くの聴講者が集まった霞が関・校友会館の会場

On Monday, December 6, 2010, we held our 9th symposium at the Koyu Kaikan in the Kasumigaseki district of Tokyo. Harald Gehrig, Cultural Director at the German Embassy in Japan, gave a lecture titled “150 Years of Friendship Between Germany and Japan: Cultural Exchange Will Uplift the Future”.

2010年12月6日(月)東京霞が関・校友会館にて、第9回講演会を開催しました。「日独交流150年、文化交流で未来を拓く」の演題でドイツ大使館文化部長ハラルド・ゲーリック氏が講演を行いました。第9回講演会は、日独交流150周年事業の一環でもあります。

会場には100名以上の聴講者が集まり、大盛況に終わりました。講演会前に山下理事長が2010年7月に訪問したイスラエル・パレスチナの報告、橋本副理事長が嘉納治五郎師範の柔道を通した国際交流について説明しました。

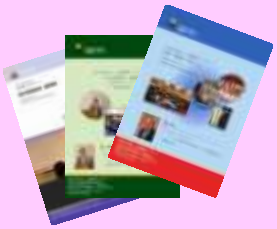
ゲーリック氏は、「150年前に志を高くした日本人がドイツに渡り、私たち日本人は多くの事をドイツから学んだこと。150年経った現在ドイツはハイレベルな教育、科学技術や最先端テクノロジーに多くの予算を投じている。今回の日独交流150周年を機に、ドイツ大使館がイニシアチブを取り、日本全国でドイツの文化・スポーツ科学技術などの紹介をしている」と話されました。

講演会後、ゲーリック氏を囲んで交流会を開催しました。たくさんの方々が交流会までご参加いただき、大変盛会でした。

子供用リサイクル柔道衣を募集しています！

洗濯した柔道衣上下＋帯をセットにして、下記住所にヤマト運輸や佐川急便などの運送会社を使い、着払いでお送り下さい。

〒259-1292
神奈川県平塚市北金目4-1-1
東海大学柔道研究室
NPO法人柔道教育ソリダリティー事務局　宛



柔道教育ソリダリティーのバックナンバー講演録をご要望の方は、事務局0463-58-1211(内線3524)までご連絡下さい。
講演録は、無料で配布しております。また、ホームページからもダウンロードすることが出来ます。

http://npo-jks.jp

パレスチナオリンピック委員長より記念の盾をいただく

イスラエル・パレスチナへ柔道指導者派遣

国際交流基金（文化協力事業）との合同事業として、2010年7月17日～23日の期間、山下理事長、光本事務局長、井上康生氏をイスラエル・パレスチナに派遣しました。

Chair Yamashita, Administrative Director Mitsumoto and Kosei Inoue are dispatched to Israel and Palestine from July 17 to 23, 2010, as part of a joint project with the Cultural Cooperation Program of the International Exchange Fund.

エルサレム市内を一望できるオリーブの丘にて

イスラエル政府が作った、高くて長いコンクリートの分離壁

光本惠子事務局長の報告です

イスラエルとパレスチナ、日本から遠く離れた二つの国は、自国の文化や宗教に誇りを持ち、その長い歴史を紐解いても、ユダヤ人迫害の暗い歴史やイスラエルのパレスチナ侵略など、お互いに正当な言い分を持っています。世界が平和を築くために色々な努力が払われてきたことは言うまでもありませんが、この負の連鎖関係に安易に踏み込むことが出来ずに現在に至っています。

山下理事長は、これまでも柔道の活動を通じて、柔道の精神『自他共栄』を世界に伝え、柔道が世界の人々を結びつける運動文化であることに着眼し、世界の平和構築に微力ですがお手伝いをしてきました。

柔道の活動による交流は、文化や宗教などの違いを乗り越え、世界の人々の相互理解を深め、フェアプレーの精神は平和の心を涵養し、友情を培うと考えています。その交流方法は、色々ありますが、今回の訪問のように、人と人との信頼を深める側面から交流出来たことに、大きな意義があったと思います。

2010年7月18日

イスラエルオリンピック委員会を訪問し、委員の方々と柔道競技を中心に意見交換を行いました。その後、イスラエル文化・スポーツ省に赴き、リブナット文化・スポーツ大臣を表敬訪問しました。ここでは、竹内晴久（イスラエル国駐箚特命全権大使）氏の同席も頂き、2010年12月のイスラエル・パレスチナ柔道少年日本招へいの事業に触れ、理解を求めました。リブナット大臣の息子さんも柔道をされているとの事で、大きな理解を示して下さいました。

夜には、日本大使公邸での歓迎会に参加。お集まり下さった、イスラエル在住の柔道関係者、武道関係者の方々と夜遅くまで意見交換をさせていただきました。

イスラエルのオリンピック委員会の皆さんと竹内大使（左端）

リブナット文化・スポーツ大臣を表敬訪問した（左から4番目）

テルアビブ市内の道場

7月19日

イスラエル柔道関係者への講演会と柔道教室をイスラエル・テルアビブ市のNetanyaにあるWingate instituteで行いました。山下理事長は「Challenge to Your Dream」の題目で講演を行いました。「畳の上では相手は敵でなく、柔道の稽古や試合を通じてお互いを尊重し磨き高める相手であること。柔道で学んだことを人生で活かし、柔道を通じて培った心を持って、皆さんの夢に挑戦して下さい」と話しました。

その後は、イスラエル柔道連盟の役員と会合を持ち、柔道の技術、柔道を通じた青少年育成についての多くの質問を受けました。イスラエルは、柔道メダリストを輩出する程柔道競技に力を入れています。特に若い選手の育成を重視しており、色々な取り組みもされていました。山下理事長は、ここでもイスラエルの柔道少年の日本招へいについて理解を求めました。

7月20日

パレスチナ暫定自治区ベツレヘムのCatholic Action Sport Centerで講演会・柔道教室を開催しました。エルサレムからラマッラ経由でいくつかの検問を通り、ベツレヘムに入りました。パレスチナでは、この日に合わせ青少年柔道大会が行われました。山下理事長は、講演会の中で1984年のロス五輪でエジプトのラシュワン選手が山下理事長の怪我をした足を攻めずに正々堂々とフェアプレーの精神で戦った話をし、会場から大きな拍手が起こりました。

講演終了後は、井上康生氏が柔道教室を行い、150人もの参加者がありました。また、国際交流基金から支援をいただいた柔道衣をパレスチナ柔道連盟会長ハニ・ハラビ氏に引き渡しました。会長は、この素晴らしい柔道衣を大切に使いますと謝辞を述べられました。

ヒジャブを巻いて柔道大会に参加した女の子

故アファルト議長の墓前に献花

7月21日

最終日、ラマッラにある故アラファト議長廟に山下理事長、井上氏が献花に訪れました。パレスチナ暫定自治区では、警察の先導もあり順調に移動が行われました。その後、パレスチナオリンピック委員会と会合を持ちました。パレスチナオリンピック委員会会長代理のミルトバイリ氏は、国際交流基金、本法人へ謝意を述べられました。続けてパレスチナ柔道連盟会長ハラビ氏が「パレスチナ暫定自治区の特徴からスポーツ活動に対して多くの制限があり、地域外への移動に関しても制約がある。しかし、子供たちのスポーツ活動は平和の象徴である。これからも青少年のために、サポートを頂きたい」と述べられました。山下理事長は、ここでもパレスチナの柔道少年の日本招へいについて理解を求め、パレスチナ柔道連盟会長から、是非参加したいとの意向がありました。

その後、パレスチナ自治区首相府に移動しファイヤード首相を表敬訪問しました。ファイヤード首相は、今回の柔道を通した活動に謝辞を述べられ、これからも文化スポーツ交流で協力して欲しいと述べられました。これに対し、山下理事長は、スポーツは健全な心と体をつくります。パレスチナの青少年にもっと多くのスポーツを通した交流が出来るよう私も働きかけたいと述べました。

今回の活動に謝辞を述べられたファイヤード首相（右）

イスラエル・パレスチナ合同の柔道教室で指導を行う井上氏

イスラエル・パレスチナ合同練習

午後にパレスチナ・イスラエル合同練習が行われました。直前まで、何人のパレスチナの子供たちが参加出来るのか、解りませんでした。しかし、日本大使館の栗本知彦書記官が指揮を執って下さり、イスラエルで柔道教室を運営しているデイビット・ラズミ氏のご尽力もあり、イスラエルから32名、ヨルダン側西岸地区(ヘブロン、ベツレヘム等)を含むパレスチナから25名の参加がありました。予想以上のたくさんの子どもたちの参加を本当に嬉しく思いました。

パレスチナの子どもたちは、柔道衣の普及が完全ではありませんでしたが、写真（右真ん中）のように、イスラエルの子どもが帯の結び方を教えてあげている光景には、胸を打たれます。最初はお互いにぎこちなくて、練習相手を選ぶのにもためらいがありましたが、練習が進むにつれ、そんな気持ちはどこかへ飛んでいったように見えました。柔道衣を着た子どもたちは目が輝いており、どちらの地域から来た子どもか、私たちには見分けがつかないほどでした。一緒にたくさんの汗を流した子どもたちは、お互いに感謝し、出来れば近い将来、再会したいと話していました。

最後に山下理事長と井上康生氏から、今回のご尽力に対し、ラズミ氏に感謝を述べました。今回の訪問は私たちNPO法人だけでは到底実現できなかったことです。多大な支援を下さった、外務省、国際交流基金、在イスラエル日本大使館のスタッフの皆様、そして本法人の会員の皆様に、心から御礼を申し上げます。

今回の活動に参加して下さった皆が、柔道の心と笑顔を持って帰っていったように感じました。長い間紛争しているイスラエルとパレスチナ関係には、ほんの小さな歩み寄りかもしれませんが、スポーツ（柔道）が出来る交流の大きな可能性を肌で感じることが出来た一週間でした。

パレスチナの子どもに、帯の結び方を教えるイスラエルの子ども

多くの子どもたちが参加した合同練習

柔道で日本の心を世界へ伝えるために・・・

イスラエル・パレスチナの子供たちを招へい

イスラエルとパレスチナからの柔道少年13名、役員4名、計17名を招へいしました。この事業は、2010年7月の山下理事長・井上康生氏のイスラエル・パレスチナ訪問事業の連動事業として、外務省、(株)グローバルアリーナ、国際交流基金、(財)東京倶楽部、三井物産(株)、三菱商事(株)、(株)ユニクロ(50音順)の協力の下実現しました。

We invited 13 junior judoka and 4 judo officials from Israel and Palestine. This invitation, which was associated with the Israel/Palestine mission in July 2010 attended by Chair Yamashita and Kosei Inoue, was made possible by support from the Ministry of Foreign Affairs, the International Exchange Fund, Tokyo Club Inc., Mitsui & Co., and the Mitsubishi Corp.

12月17日、来日したばかりのイスラエルチーム。初めての日本に緊張の面持ち

道場で出迎えた山下理事長を真剣に聞くイスラエルチーム

12月18日パレスチナチームが来日。長旅にかかわらず笑顔を見せたくれた

望星学塾での交流練習の様子

2010年12月18日

イスラエルチームが、東海大学湘南校舎を訪問しました。山下理事長がイスラエルチームを柔道場で出迎えました。山下理事長の歓迎の言葉に、緊張と喜びの趣の子供たちでした。上水研一朗男子柔道部監督から技術指導をしていただき、柔道部の学生と湘南地区の中学生と一緒に汗を流しました。

体力的にもトレーニングを積んでいるようでした。その後、参加して下さった地元中学校の選手や先生方と交流しました。

柔道で汗を流し、礼をしてお互いを称え、感謝の気持ちを述べる。柔道は人と人とを結びつける大きな力を持っていました。

12月19日

パレスチナチームがイスラエルチームに合流し、2チーム合同の日程となりました。東京・武蔵野市の東海大学望星学塾で交流練習を行いました。準備運動、柔軟体操、様々なゲームを行い段々と打ち解けていきました。東海大学望星学塾の北田晃三先生に技の指導をしていただき、実際に何度も試していました。最後に橋本副理事長から、パレスチナとイスラエルの両団長に記念品の贈呈がありました。

12月20日

表敬訪問した外務省の人物交流室にて

国際交流基金を表敬訪問し、2010年7月のイスラエル・パレスチナ訪問についてのお礼と今回の招へい事業について山下理事長が報告を行いました。次に外務省を訪問し、広報文化交流部村田直樹部長、また人物交流室の川上文博室長に今回の招へい事業についての経過報告と、進行状況を説明しました。

有楽町にある外国人記者クラブでプレスカンファレンスを行いました。壇上に、山下理事長、ゲストスピーカーとしてイスラエルチームのラズミ団長と、パレスチナチームのアルカワスミ団長が上がり、今回の訪問について話をしました。アルカワスミ氏は、「イスラエルとパレスチナのスポーツ交流は現在行われていないが、柔道の心を信じて、このプロジェクトに参加した。帰国して、参加した選手たちが同年齢の子供たちに日本滞在のことを話すことによって、パレスチナの子供たちに大きな影響を与えてくれると信じている」と述べました。イスラエルのレズミ団長は、「今回、パレスチナの団長やコーチと我々の問題や悩みを話し、初めてスポーツを通した交流について話すことができた。長い間夢に見ていた来日ができ、心から感謝している」と述べました。

その後、講道館を訪問しました。そこで、嘉納行光講道館名誉会長(本法人顧問)から英語で歓迎のお言葉をいただきました。講道館の道場では、向井幹博先生に柔道指導をしていただき、春日柔道クラブの中学生と一緒に汗を流しました。

両団長は、"Judo For Peace"の話し合いを継続し、平和への解決方法を見つけるよう努力していきたいと述べました。

12月21日

飛行機で広島入りました。加藤暁子理事が、広島市の秋葉忠利市長をご存じで、秋葉市長の表敬訪問が実現しました。柔道経験者である秋葉市長は、穏やかに笑顔で出迎えて下さり、今回の来日に関しても大変注目して下さいました。挨拶で「広島市は2020年に核なき世界を実現させたい、そして同年にオリンピックを招致させたい」と述べられました。市庁舎を後にした一行は、広島平和記念資料館を見学しました。選手たちは言葉少なに、正確に再現された被爆後の広島の街の模型を熱心に見ていました。この日の広島市は、雨が激しく降っていましたが、原爆死没者慰霊碑に献花をしました。

加藤理事のはからいで秋葉市長が両チームを出迎て下さった

自分たちが平和へ向けて努力しなければいけないと話した両チーム、慰霊碑に献花

12月22日

白光中学校の生徒と両チームが合同で歌を歌いました

福岡県宗像市にあるグローバルアリーナに移動した両チームは、加藤暁子理事の調整で、九州唯一の「絶叫マシーン」のある、グリーンランドに行きました。その後、大牟田市の白光中学校で交流会に参加しました。交流会では、白光中学校の先生・生徒の皆さんが、独唱や琴、ギターの演奏、そして、パレスチナとイスラエルの民謡を皆さんが合唱して下さいました。両団長は、この交流会を企画して下さった皆さんに感謝の気持ちを述べ、感謝の気持ちを歌で返しました。イスラエルチームは毎週金曜日に歌う家族団らんの歌、そしてパレスチナチームは国を愛する気持ちを表した歌を歌いました。交流会の後は、白光中学校柔道部で一緒に汗を流しました。イスラエルのナフム君は、「日本の中学生と練習をしてみて、今までとは違う練習方法があるのだと刺激を受けました。大会前に良い練習が出来ました」と話しました。

技術指導と練習プログラムをコーディネートしてくださった釘崎先生(左)と甲斐先生(右)

大会前の子どもたちに話をする九州柔道協会藤田弘明会長

12月23日

12月26日に行われる「第8回サニックス旗国際中学生柔道大会」に出場する外国選手団（南アフリカ、オランダ、台湾、香港、韓国、アメリカ、ロシア、イスラエル、パレスチナ、9チーム）が全て来日しました。

外国選手団と白光中学校柔道部、そして東海大学第五高等学校柔道部の皆さんが、合同練習に参加しました。合同練習の前には、九州柔道協会の藤田弘明会長から「柔道は教育的なスポーツであること、この期間中、練習を通して柔道の心を学んでほしい」と参加者全員にお話がありました。午前と午後に分けての練習でしたが、厳しい練習にもかかわらず参加者全員、真剣に練習に取り組んでいました。

12月24日

朝から技の技術指導と、乱取り稽古で一日を過ごしました。白光中学校の釘崎浩明先生と東海大学付属第五高校の甲斐康浩先生が、技術指導と練習プログラムをコーディネートして下さいました。技術指導では、立命館大学の春日俊先生と、朝飛道場の朝飛大先生にもご指導いただきました。参加者たちは熱心に説明を聞いていました。朝飛先生の寝技の指導では、イスラエルのオール君とイダン君が参加者の前で技の披露をするように言われました。二人とも選ばれて、とても嬉しそうでした。

クリスマスキャンドルが綺麗なグローバルアリーナ

参加者の前で代表として寝技の披露を行ったオール君とイダン君

12月25日

あこがれの穴井選手の柔道指導に、真剣に練習を行うイスラエルチーム

パレスチナチームは、他の海外チームと一緒に大宰府を訪れました。神社のお参りで手を洗うのを見て、イスラム教でもお祈りの前は手と足を洗いますが共通したところがあると思ったようでした。午後は、グローバルアリーナの柔道場で穴井隆将選手の柔道指導がありました。子供たちは、穴井選手に会えるのを大変、楽しみにしていました。その後、山下理事長が講演を行い「このような素晴らしい国際大会に参加し海外からの選手たちと交流出来ることは、大変貴重な体験である。畳の上では相手は決して敵ではない。練習や試合を通してお互いを磨き高めることが大切である。嘉納治五郎先生の唱えた「柔道」は、柔道で学んだことを人生に活かすことが大切である」と話しました。夜は、グローバルアリーナのご配慮で、歓迎会を開催していただきました。なんとマグロの解体ショーがありました。コーシャミール食で食べられる物が限られていたレズミ氏も美味しそうにマグロを食べていました。

12月26日「サニックス旗福岡国際中学生柔道大会」

第8回サニックス旗福岡国際中学生柔道大会に両チームが出場しました。今回は海外から9チーム、日本から75チームが参加しました。会場となった福岡県宗像市のグローバルアリーナは、たくさんの観戦者が集まり、大変盛り上がっていました。

初めての国際大会に緊張した様子のパレスチナチーム

両国の旗を作って応援に来て下った三井物産（株）の皆さん

パレスチナチーム

パレスチナチームはイブラヒム君が来日出来なかったため、6人で頑張りました。アハメド君は講道館での練習時に肩を怪我していましたが、当日はテーピングをして出場しました。先鋒はオダイ君、次鋒はウェザム君、中堅はアハメド君、副将はバハ君、大将はマージュ君です。1回戦で福岡県の新宮中学校と対戦し、4-0で敗退しました。初めての国際大会を経験し、将来へ向けての大きな一歩となりました。

フェアプレー賞を受け取るイスラエル、オマール君

試合後、山下理事長へ試合の報告を行った両チーム

イスラエルチーム

先鋒はヨエル君とヨナタン君、次鋒はオール君、中堅はイダン君、副将はオマール君、大将はダニ君です。1回戦は、福岡県にある福間中学校に5-0で快勝、2回戦は和歌山県の西脇中学校に2-1で勝ち進みました。3回戦は、熊本県の九州学院中学校と対戦し、3-2で敗退しました。3回戦で敗退したイスラエルチームですが、表彰式で大会の「フェアプレー賞」を頂きました。選手は皆とても驚き、感激していました。

伝言ゲームを行うパレスチナのカレッド君とイスラエルのイダン君

両チームのコミュニケーションも増え、良い雰囲気のサニックス旗柔道大会後のパーティー

試合中にはイスラエル、パレスチナチーム双方が応援を行うなど、良い空気が流れていました。試合後はスタッフで小さなパーティーを催しました。来日当初は緊張感のあった両チームですが、パーティーでは、二つ国の隔たりを感じることはありませんでした。パーティーの最後には、スタッフ全員で「上を向いて歩こう」を合唱しました。

女子のチームとも対戦しました

滞在中は（株）ユニクロに支援いただいたお揃いのユニフォームを着ていました

12月27日

サニックス旗柔道大会に出場したチームと近隣の中学生が集まって、錬成大会が開催されました。イスラエルチームは全部で4試合に参加し、健闘しました。午後は、イスラエルチームはショッピングを楽しみ、翌日に帰国しました。パレスチナチームは宮崎県綾町へ向かいました。

光本事務局長と再会を約束し、パレスチナチームは帰国しました

12月28日

パレスチナチームは、宮崎県の宮崎県綾町からの招待で、サニックス旗国際中学生柔道大会に参加した他の8チームの選手たちと一緒に、地元の柔道少年と交流会を持ちました。まだまだ、技術も体力もこれからですが、日本滞在の2週間で「礼」がしっかり出来るようになりました。交流会の最後には、また再会することを夢見て、多くの柔道仲間と握手していました。

12月29日

パレスチナチームも無事に帰国することが出来ました。

学生スタッフ

イスラエル・パレスチナチームの2週間の滞在に同行し、
両チームを支えてくれた学生スタッフの感想です

東海大学体育学部武道学科
4年　奥谷　祐介

まず初めに、この活動の企画・実施を行われた、山下先生をはじめとするNPO法人柔道教育ソリダリティーの皆様、活動に支援をいただいた皆様、ボランティアの皆様に感謝したいと思います。

この活動の初めには、両チームとも緊張感があり、互いに意識しあっていました。しかし、一緒に柔道や生活をすることで、お互いの雰囲気が少し和らいだように感じました。仲良くなるとまではいかなかったものの、お互いに今までとは違う考え方で接する事ができたのではないでしょうか。笑顔で握手をする選手も見られ、互いに認め合う事ができたのではないかと感じました。

2週間という短い期間、共に生活をするということは、彼らにとって不安であったと思います。しかし、この活動を通して両チームの雰囲気は和らぎ、笑顔まで生まれました。複雑な事情を抱えた両国でも“柔道”を通して少なからず「平和」に近づいたのではないかと感じました。両チームの選手にとって、この2週間で体験したことは、とても大きな経験になったと思います。そして、彼ら自身が「友情・平和」について少しでも考えてくれたら良いと思います。将来、彼らの中から両国の平和を訴え、活動してくれるような人が出てきてくれることを望んでいます。

今回の活動にボランティアとして参加をして、私にとっても素晴らしい経験をすることができました。世界の平和についてあらためて知り、考えさせられることが多くありました。世界の平和に対して、大きな力で働きかけるということはできませんが、「柔道」を通して少しでも平和に向けた活動ができるということを知りました。今後、どのような活動ができるかわかりませんが、学んできた柔道を通して世界の平和に貢献でたらと考えています。

東海大学体育学部
スポーツ・レジャーマネジメント学科
3年　笠上　夢果

約10日間、彼らと共に過ごす中で本当に多くの事を感じ、学ぶことができ、刺激のある充実した日々となりました。毎日、毎日感じる事は異なり、書き出せば切りがない程たくさんの事を得ることができました。その中でも印象に残ったことをいくつか書きたいと思います。

まず一つ目は、「言葉/言語（英語）」の大切さです。英語がわからなければ相手の考えている事や気持ちもわからず、仲を深めることも難しいということです。

二つ目は、「物の見方と視野を広くもつ」ということです。イスラエルのコーチや通訳さんからお話を聞いていて、今まで私の持っていたイメージを覆されることになりました。自分の物の見方の問題に気付いたのと同時に、まだまだ「知ろうとする」「視野を広げる」ということが出来ていない自分にも気付きました。

三つ目は「柔道の“道”という考え方」についてです。私は柔道をしていませんが、山下先生が講演でおっしゃっていた「柔道の道とは、柔道で学んだことを日常生活に生かす」という考え方は柔道に限らず、全てに当てはまると感じました。毎日の生活の中で色々な事を感じ学んだことをその場限りのものとしてしまうのではなく、その後の生活の中で意識する、活かすということと同じだと思いました。

今回の招へいプロジェクトでは、文章にしきれない程、本当に多くのことを感じ学ぶことができました。間違いなく、私の大学生活の中で最も刺激のある、素晴らしい日々になります。イスラエル・パレスチナ両チームの選手やコーチ、団長さんから本当にたくさんの「ありがとう」と、とても温かい言葉を頂きましたが、それ以上に、「ありがとう」という気持ちでいっぱいです。またいつか、必ず彼らに会えることを願っています。

東海大学体育学部武道学科
4年　釘崎　強至

今回この活動に参加させてもらい、私自身の視野を広げることができたと思います。それと同時に国や宗教で隔たりがあってもお互いに理解しあって仲良くすることは、不可能ではないと感じました。今回、特に印象に残っていることは、大会当日の試合の始まる直前に、イスラエル、パレスチナ双方のある子達が言葉を交わし握手をしていたことです。それまであまり話しているところを見たことがなかったので驚きました。来日当初は、相手側をテロリストと呼んだりして、とても不安でした。しかし、彼らのこういった行動をみると、私達が見てないところで少なからず会話を交わし交流をしていたのだと思います。人間同士の関わりに国境や宗教、思想は関係ないと感じました。

また、ある記者がインタビューで「こういった活動でイスラエルとパレスチナの関係が良くなると思いますか」という質問をしていました。子供達は「畳の上に立って組みあえば、そんなの関係ありません」と答えていました。私自身イスラエルとパレスチナの問題はとても難しいと認知しています。彼らも同じように考えていると思います。でも彼らは彼らなりに何とかしようという気持ちがあり、柔道を通じて仲良くしていけると考えていると私は感じ、とても嬉しく思いました。

今回様々なことを学びましたが、一番大きいのは「繋がり」の大切さだと思います。イスラエルとパレスチナという難しい間柄であっても繋がりを持つことができて、それがまたどこかで別の人を巻き込んで繋がっていく。関係が改善されるのは簡単ではないけれど、この小さな繋がりが大きくなって少しでも良くなっていく為の力にと願っています。そしてこの期間に様々な人達から支援や応援をいただいたことに、とても感謝しています。私自身もここで培うことができた繋がりを大切にしたいです。

東海大学体育学部
スポーツ・レジャーマネジメント学科
3年　日野瑛恵

私は、このようなサポートする立場として外国人の子供たちと共に過ごしたり、NPO法人の活動に参加するのは初めてのことでした。宗教や文化が日本とは大きく異なる両国で、さらに政治背景も難しい立場だったのでうまくサポートできるか不安でした。やはり、食事の面や彼らの育ってきた環境を考慮して日本の文化・習慣とうまくバランスを取るのは大変でした。しかし、柔道というひとつのスポーツを通し、皆と協力し合う事でうまくサポートすることができ、彼らや私にとっても、成長する機会を与えて頂いたと感じています。また、通訳の児玉さんやイスラエルのコーチとイスラエル社会情勢や歴史を生の声で聞く機会もあり、イスラエルの本当の姿や自分の知識の無さに、気付く事が出来ました。

約1週間みんなと過ごし、帰国を見届けるまで、ホストとして国際交流を行う時に、私たちは見返りを求める必要はないということ、互いが笑顔で過ごす事が出来、笑顔で帰るということが、幸せな事だと感じました。

このような素晴らしい機会に学生のうちに参加することができ、大変嬉しく思うとともに感謝の気持ちでいっぱいです。

両チームは、約2週間の日本滞在で、たくさんの出会いがあり、たくさんの汗を流し、たくさんの友人が作ることが出来ました。今回の招へい事業で、イスラエルとパレスチナの子供たちの間にある感情が、一気に改善されたという事はないかもしれません。けれど、サニックス旗福岡国際中学生柔道大会に集まった多くの外国人柔道少年少女、そして、日本の柔道少年少女と多くの友情を育んだことは確かです。この2週間の招へい事業に、本当に多くの方々の温かなご理解と、ご協力をいただきました。

イスラエルとパレスチナの柔道少年たちが“はじめの一歩”を、ここ日本で踏み出せたことに感謝いたします。

日中友好柔道館からの報告

日中友好南京柔道館の常東（チャン・ドン）氏、日中友好青島柔道館の王華（ワン・ファ）さんより、柔道館の近況報告がありました。

We received updates on developments in regional judo centers from Chang Dong of the Nanjing Japan China Judo Friendship Center and Wang Hua of the Quingdao Japan China Judo Friendship Center.

日中友好南京柔道館　常東氏の報告です

子どもたちに受け身を教える常東氏

お久しぶりです、いつも大きな支援を下さっている日本の皆様、お元気でいらっしゃいますか？2010年3月に開館した、「日中友好南京柔道館」ですが、柔道クラスに通う子供たちも増え、運営も順調にいっています。今、日中友好南京柔道館の子供たちと初心者は合計60人ぐらいに増えました。日本で勉強したことは、とても私の力になっています。私は、日本で学んだことを子供たちに教えています。皆、大変柔道が大好きで楽しんでおります。ありがとうございました。

私の日本語は、難しいです。もっと勉強して報告を書きたいと思っております。皆様待っていて下さい。日本語の学校へ行きました。勉強はこれからも頑張ります。

南京友好柔道館を開設するに当たり、外務省やNPO法人柔道教育ソリダリティーが重要視した目的の一つである、柔道館で柔道の活動を通して、市民レベルの交流を推進することが実現されつつあります。

これから、日中友好南京柔道館は日中友好交流の懸け橋となり、両国の人々が柔道を通して、永遠的に友好交流を出来るようにと願っております。先日、就任したばかりの日本国駐中国大使丹羽宇一郎氏と上海総領事泉裕泰氏など、20人が日中友好南京柔道館を視察し、柔道選手の訓練を見て、激励を下さいました。これからも様々な方々のご支援の下、頑張っていきたいと思います。

日中友好青島柔道館　王華さんの報告です

日中友好青島柔道館の子供たちが模範演技を行った青島国際柔道大会の開会式

NPO法人柔道教育ソリダリティーの皆さまへ、お久し振りです。お元気でお過ごしでしょうか？

2010年10月30日、青島市第一海水浴場で「第一回青島砂浜柔道大会」が開催されました。この砂浜は、柔道が盛んでなく柔道場の施設が無かった頃、日中友好青島柔道館館長の徐殿平先生が、青島の柔道を普及するために「砂浜から世界へ！」をスローガンにかかげ、毎日柔道の稽古をしていた場所です。日中友好青島柔道館の子供たちをはじめ、青島各地の7チーム、約120名の子供が試合に参加しました。畳でやる柔道とは違って、立ち技だけをルールとして試合を行います。そこで、私たち日中友好青島柔道館は、幼稚園男子団体、小学生男子団体で優勝することが出来ました。

先日は、徐先生の母校である莱芜一路小学校(lai wu yi lu xiao xue)に青島柔道協会から畳、日中友好青島柔道館にも柔道衣が10着支援されました。今後は、日中友好青島柔道館から指導者を派遣し、週に4回、子供たちに柔道を教えることになりました。

青島では、少しずつかもしれませんが、子供に柔道の良さが伝わっていると感じております。柔道普及のために私達は懸命に頑張っています。これからも応援をお願いいたします。

日中友好南京柔道館へ指導者を派遣

2010年12月26日～30日の間、橋本敏明副理事長、東海大学大学院体育学研究科の朝比奈竜真君、荘司和大君を「日中友好南京柔道館」へ派遣しました。

We sent Vice Chair Toshiaki Hashimoto as well as Ryuma Asahina and Kazuhiro Shoji, both students at the Tokai University Graduate School of Physical Education, to the Nanjing Japan China Friendship Center from December 26 to 30, 2010.

橋本敏明副理事長の報告です

橋本副理事長と刘南京柔道館館長

南京市重競技運動学校内に建設された「日中友好南京柔道館」は女子柔道の道場が整備されたものだった。試合場が3面とれる広さで300畳は超えているだろう。広々としており、見学する場所や筋力トレーニングのコーナーもあり、立派な道場である。正面には中国と日本の国旗が掲げられている。まさしく友好の象徴といえる。

女子柔道の寝技練習を見学し、朝比奈君が練習に加わった。選手が35人位、コーチ4、5人。朝比奈、荘司両名が得意とする寝技の返し方を説明し、指導した。また、南京柔道館道場と同じ階で向かい側にある男子柔道の道場で寝技を中心とする練習を見学して、女子の練習と同様に寝技の返し方を説明し、指導する。男子は約30人の選手たち、そして数人のコーチがいた。夜の19時頃から21時までが、南京柔道館の練習時間である。練習日は、月曜日と水曜日の週2回で子供たちが多いが、中には大人の男女もいる。母親がわが子の練習を見守る姿は、日本と変らない。この日の練習には約60人が参加していた。整列、準備体操、受け身、打ち込みなど一連の運動が基本通りに進む。きびきびとした動作、真剣な眼差し、張り詰めた中にも和らぐ雰囲気などなど、日本の柔道の良さが伝わっていると感じた。常東君は、「日本で習ったことを行っている」と言う。よくやっていると思う。道場の空気は、NPO法人柔道教育ソリダリティーのモットーである『柔道・友情・平和』そのもの。子どもたちの笑顔が素晴らしい。

4日目、今日は、講演する日なので、気持ちを引き締めて学校へ入る。すでに学校内の会議室では、江蘇省の柔道指導者が集まり研修会を開いていた。刘先生が呼び掛けて、今回の講演を研修のプログラムに組まれたらしい。演題「柔道の技と心･･･未来を拓く子どもたちへ」とし講演を行った。

女子柔道場での練習

柔道館のある南京市重競技運動学校

後ろ受け身の練習をする子どもたち

講演では、兎澤氏が通訳を行って下さった

- ●日中友好南京柔道館は、施設、管理、指導者、活動方針などがしっかりしており、これから充実、発展する要素が十分にある。国際文化都市として日中間のみならず、グローバルな視点からの柔道クラブ作りが可能だろう。
- ●南京柔道館は江蘇省の柔道競技力強化システムとリンクしている面があり、柔道の普及と競技力強化がよい意味で刺激し合って発展する可能性を有している。初心者向けの入門書や指導者向けのテキストなどを作成し、柔道の基本をしっかりと定着させるとよい。協力して作成したい。また、教材の充実を図るとよいだろう。
- ●指導者の研修を計画的に実施するとともに、コーチ、選手、愛好者などいろいろなレベルの交流を図っていけば、さらに発展すると思われる。
- ●NPO法人柔道教育ソリダリティーの活動は小さな一歩だが、高い目標(「柔道・友情・平和」)を掲げており、南京で輪を広げることは可能であると信じる。

東海大学大学院体育学研究科
体育学専攻2年
朝比奈竜真

今回、12月26日～30日に中国の南京にて行われた柔道指導に橋本敏明先生と荘司君と参加させて頂きました。私は2009年の8月に青島友好柔道館を訪問しているため、中国では2度目の柔道指導になります。また、恐縮ながら中国男女の「ジュニアからナショナルレベルの選手」の練習に参加し、技術指導もさせてもらいました。中日友好南京柔道館は、江蘇省体育学校の女子柔道場を利用し活動していました。指導責任者は元中国ナショナル選手である常東氏です。彼は北京オリンピックに向けて、中国ナショナルメンバーが東海大学で長期合宿を行っていた時からの友人でもあります。

現在は約60名前後の生徒が柔道の稽古を行っていました。柔道経験者は数名で、後の全員は初心者です。開設されて約半年ですが、全員が楽しそうに柔道を行っていました。初心者の稽古内容は体を十分に動かしてから、受身と打ち込みです。子どもたちの打ち込みをみると、本当に形のきれいな打ち込みを行っていて驚きました。常東氏は、怪我をしない・させないこと、2つ組んできれいな技をかける日本的な柔道の指導を心掛けていると言っていました。また、日本で柔道指導の経験を積んだ常東氏は、ただ柔道を強くさせるだけではなく、柔道の教育的思想も子どもたちに指導していました。礼の大切さや、あいさつ等を厳しく話していて、柔道の本質を教えていたことに本当に感動しました。

観光では中山陵や城壁といった、中国の文化や歴史にも触れることができました。また、今回の研修を通して、元中国男子柔道チーム監督の刘先生を始め、通訳の兎澤さん、常東氏等、たくさんの人たちにお世話になりました。今回の研修で一番感じたことは、柔道は日中平和のために大きな力になるということです。常東氏とは更に友情が深まり、今後彼らが日本に来た時に力になりたいと思っています。私は指導者を目指しているので、柔道の伝道師として役立てていきたいと考えています。最後になりましたが、この様な貴重な体験をさせてくださった柔道教育ソリダリティーの皆さまに感謝したいと思います。ありがとうございました。

東海大学大学院体育学研究科
体育学専攻2年
荘司和大

今回の訪問では、トレーニング施設で練習を行っている男女の柔道選手の練習に参加させていただき、大変恐縮ではありましたが、指導をさせて頂くという貴重な経験をさせていただきました。

中国人選手の特徴としては、一本背負投及び払巻込を得意技にしている選手が多く、特に女子にその傾向が見られました。男子では背負投を使っている選手がいましたが、そのほとんどが片襟での技となっていました。このような特徴となったのは、中国の指導者に前襟を持った日本のような柔道を指導できるものが少ないためだと考えられます。しかし、中国の選手は現状のスタイルで国際的に活躍しています。さらに日本のスタイルを身につけることが出来れば、さらなる活躍が期待できると感じました。

日中友好南京柔道館は「江蘇省体育学校」の女子道場を練習場所として、週4回ほど練習を行っていました。日中友好南京柔道館は創設されてから半年程度で、稽古を行っている者は、幼児から大人まで合わせて60人程度でした。そのほとんどが初心者で、大人のうち数名は黒帯をしていました。そのため、まだ乱取稽古は行っておらず、受身、打込、補強運動などの基礎練習を主に行っていました。日中友好南京柔道館の責任者で、元中国ナショナルチームの常東氏が熱心に指導を行っているため、受身、技ともに、とても上手なもので驚きました。また、とても楽しそうに稽古を行っており、私も柔道の楽しさを改めて実感することが出来ました。さらに、多くの父兄の方々が練習を見学しており、とても良い雰囲気の中で稽古を行っていました。

常東氏は「ここでは、日本の正しい柔道を教え、いつか中国を代表する選手をここから輩出したい。さらにただ強いだけの選手ではなく、柔道の教育的思想も指導していきたい」と述べていました。日中友好南京柔道館が、中国の柔道の中心になれるように、今後の益々活躍に期待したいと思います。

江蘇省体育学校内の男子の柔道場

背負投の指導を行う常東氏

練習が終わり和やかな雰囲気の中で、日中友好南京柔道館の子どもたちと

青少年を育てるために・・・

山下旗柔道大会

2010年7月4日に行われた第32回
山下旗柔道大会を視察しました

豊里柔道クラブの皆さんが温かく出迎えて下さいました

山口先生の柔道教室にて、相手を思いやる大切さを学ぶ子供たち

2010年7月4日(土)宮城県登米市登米総合体育館で第32回山下旗柔道大会が行われました。

The 32nd Yamashita Prize Judo Tournament was held in Tome City Gymnasium in Tome City, Miyagi Prefecture on Saturday, July 4, 2010.

7月4日(土)宮城県登米市登米総合体育館で第32回山下旗柔道大会が行われました。参加チーム133チーム・795名の小中学生が一堂に会した活気あふれる大会を取材しました。大会が始まった1978年以来、毎年欠かさず、ご父兄やボランティアスタッフのサポートの下、大会が継続され、現在では参加者は宮城県内だけでなく福島・山形・茨城・岩手・秋田からも集まり、柔道大会を通した相互交流が行われています。

大会前日の夕方に柔道教室講師の山口香先生、橋本敏明副理事長と会場を訪れましたが、畳500畳にもおよぶ6試合会場はすっかり準備が整っていました。

大会当日、山口香先生を招き柔道教室が開催されました。800人の子供たちを前に山口先生は「今日は、『礼』についてお話します」と始め、相手に武器を持っていないことを示すために手を前にしてお辞儀をすること、礼は相手の状況や立場そして目の高さも合わせて、気持ちを通じ合わせて挨拶をするということ。それは、社会に出ても外国に行っても同じことだとお話しされました。

また、佐藤壽昭教育長の「柔道出身者が豊里を支えているんですよ」という一言は、この大会をサポートしている本法人にとって嬉しいお言葉でした。

会場では、仲間や父兄の応援を受け白熱した試合が進み、皆さん生き生きとしていました。この柔道大会に参加した青少年が、柔道の発展のみならず様々なことに力を発揮していってほしいと心から願っています。

最後にこの大会の取材あたり、お世話になりました大会役員の皆様、特に寺澤豊志先生、今野一幸先生、ご案内いただいたご父兄OBの皆様、豊里柔道クラブの皆様と大会運営に関わったすべての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

事務局　小澤　浩子　記

インターンシップ生の受入

2010年7月20日～8月19日の間、インターンシップ生を受入れました

インターンシップ生の山田和弘君と山下理事長

We accepted Kazuhiro Yamada, a fourth year student majoring in sports management at the Tokai University School of Physical Education, as an intern for one month from July 20 to August 19, 2010.

東海大学体育学部スポーツマネージメント学科4年生の山田和弘君をインターシップ生として2010年7月20日～8月19日の1ヶ月間受入れました。高校生の時に柔道部に所属していた山田君は、現在でも全日本学生柔道連盟でボランティア活動なども行っており、柔道を通した活動をしている本法人に興味を持ったそうです。

インターンシップ終了後の山田和弘君の感想です

NPOという団体は一般的な企業と違い、普通の企業が求める利益を求めているのではなく、その理念や活動の目的が大変重要になってくると思いました。私がお手伝いしていた時に山下先生がイスラエルとパレスチナに行かれ、現地で両地域の子どもたちのために柔道教室を開催しました。少しですが、訪問の準備などに関わることができ、貴重な体験をさせていただきました。今回、事務局で多くの単純作業をこなしましたが、単純作業にも一つ一つ意味があり、その作業があってさまざまなことが成り立っているのだと、学ばせていただきました。

第29回　望星旗少年柔道大会

第29回望星旗少年柔道大会（柔道の部）を支援しました

東海大学柔道部の学生チャンピオン4名が模範演技を披露しました

We supported the 29th Bosei Prize Junior Judo Tournament held at Tokai University on October 24, 2010.

2010年10月24日（日）、東海大学湘南校舎武道館にて「第29回望星旗少年武道大会（柔道の部）」が開催されました。関東近県ならず、遠く新潟県・京都府からも参加があり小学生低学年の部48チーム、高学年の部49チームで白熱した戦いが繰り広げられました。

空き時間に会場の片隅のあちらこちらで、実際に組み合って練習してる姿が見られ、小学生たちの向上心に大変関心しました。大きな掛け声を出して相手に立ち向かっていく姿、半ベソかきながら最後まで組み合う姿、痛めた手をかばいながら全力を尽くす姿、そして何より試合の前後で引率の先生方がお互いに深々とお辞儀をし、相手に礼を尽くす姿に柔道の心を感じました。

子供たちが笑顔で怪我なく大会会場を去れるのは、関係者の皆様の大きなサポートのお陰です。ありがとうございました。

今後の活動予定

柔道選手の受入

ロシアより女子柔道指導者、中国より男女柔道選手を受入れます。

We welcomed a female judo instructor from Russia and a male and female judo instructor from China.

柔道指導者の派遣

2011年3月、びわこ成蹊スポーツ大学の村田正夫准教諭を日中友好南京柔道館に派遣します。

We dispatched Associate Professor Masao Murata of the Biwako Seikei Sports University to the Nanjing Japan China Judo Friendship Center in March 2011.

小説「姿三四郎」の英訳版

小説「姿三四郎」の英訳が本格的に始りました。

We began substantive efforts to produce an English translation of the Japanese novel *Sugata Sanshiro*.

講演会事業

2011年6月に第10回講演会・総会・交流会を開催します。

We held our 10th Symposium / General Assembly / Exchange Session in June 2011.

NPO法人柔道教育ソリダリティー会報9号
制作・デザイン：柔道教育ソリダリティー事務局　宮本円　印刷：（株）プリントパック

2010年度　寄附・団体会員一覧

― Supporter ―

三井物産（株）、（株）アルデプロ、東建コーポレーション（株）、新日本製鐵（株）、（財）東京倶楽部、（株）ユニクロ、三菱商事（株）（株）ローソン、（学）東海大学、（株）小松製作所、ミズノ（株）、大成建設（株）、秀和ビルメンテナンス（株）、（株）神田製作所、（株）東芝、三井住友海上火災（株）、（株）三菱東京UFJ銀行

㈱アサヒ、㈱アシックス、アスカコーポレーション㈱、植木会計事務所、㈱エイ・ステージ、㈱S・Yワークス、㈱ME横浜、㈱大戸屋、大峰堂薬品工業㈱、オクト産業㈱、㈱小倉屋柳本、㈱オネスト、㈻加計学園、㈱霞ヶ関東海倶楽部、神奈川柔道連盟、㈱金子商事ダスキン部、カネマツ運輸㈱、川中不動産㈱、関西ブライダル、九州電力㈱、共和電子㈱、㈱黒沢総研、京王電鉄㈱、㈱廣洋、相模トライアム㈱、㈱三技協、㈱スウィート・ベリー、㈱鈴廣蒲鉾本店住友商事㈱、綜合警備保障㈱、㈱ダイナミックスパースンズ東京、㈱ダイワコーポレーション、㈱通信館、㈱築地すし好、㈱テック、㈱東海教育研究所、東海教育産業㈱、東海大学付属相模高等学校、㈶東京都柔道連盟、医療法人 徳真会グループ、農業生産法人㈲十津川農場、医療法人 白磁会中ノ島センタービル歯科、㈱博報堂DYメディアパートナーズ、羽田タートルサービス㈱、早川繊維工業㈱、㈱ファンドクリエーション、㈱富士サービス、㈱藤野製作所、富士ミネラルウォーター㈱、㈱プロ・アクティブ、㈲みのさんファーム、明光産業㈱、医療法人社団 明正会、㈱メディカルラボ、㈱山安、㈱ユニバーサルアンダーライターズ、㈱ユーミーネット、横浜市柔道協会、㈻了徳寺学園、㈻了徳寺大学、㈱わかば、㈱わくわくコーポレーション

（50音順）

個人会員に関しては、ホームページ中の協力者の紹介をご参照下さい。

http://npo-jks.jp

	個人	団体
正会員	270	50
寄付	25	25
アドバイザー	37	

入会のご案内

柔道教育ソリダリティーは、2009年5月1日より国税庁の認定を受けました。本法人への寄付は寄付金控除、損金算入など税の優遇措置の対象となります。本法人の活動は、皆様からのご寄付、ご支援によって運営されています。本法人の趣旨にご賛同の上、ご協力いただけましたら幸いです。

会員（個人）一口 5,000円

（団体）一口 50,000円　※一口以上から受け付けます

寄付　特に定額はありません

■ 郵便振替　口座記号番号：00200-7-37175　加入者名：特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー

■ 銀行振込　三菱東京UFJ銀行 平塚駅前支店 普通口座1573953

口座名称：特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー 理事山下泰裕

横浜銀行 東海大学駅前支店 普通口座1768726

口座名称：特定非営利活動法人柔道教育ソリダリティー 理事山下泰裕